大前経営塾第36期　カリキュラム予定　（2019年10月1日開講）

	現代の経営戦略 映像教材＋Webディスカッション		新しい能力を身につける 書籍または映像教材＋Webディスカッション	Real Time Online Case Study Webディスカッション＋映像教材	大前研一ライブ 映像教材	経営者講義 映像教材＋Webディスカッション
	テーマ（予定）	内容	テーマと内容			テーマ（予定）
10月	**テクノロジーがもたらす破壊的変革と将来 ～デジタル・ディスラプション時代における企業経営とは～**	近年、主に新興企業がテクノロジーを用いて既存のビジネスモデルを破壊的に変革しており、あらゆる産業で業界の垣根を越えた「産業の突然死」の可能性が高まっています。 この「破壊（デジタル・ディスラプション）」は、今後、産業・社会・生活にどのような影響を与えるのか、既存企業は「破壊的変革」にどう対抗するべきか、国内外の事例を交えて検討いたします。	**情報収集力** 経営者としての意思決定をするためには、的確な情報収集が必要です。情報収集の手段としてのGoogleの活用など具体的な手法を学びます。	与えられた情報だけを用いて行うケースメソッドと異なり、情報収集や分析を自ら行い、解決策についての議論をクラスメイトと協力しながら行っていきます。また大前研一による講義解説から経営戦略の要諦を学びます。 このリアルタイム・オンライン・ケーススタディ（RTOCS）を行うことで、経営者として直面するであろう、あらゆる問題についての考え方、経営判断能力を鍛えることができます。	過去1週間に起きた日本・世界のニュースの中から大前研一がピックアップ、独自の視点で解説する講義です。政治・経済・企業経営に関する最新動向を学ぶことができます。 ※大前研一ライブの中で、Real Time Online Case Studyの解説を行います。	京セラ株式会社 名誉会長 稲盛　和夫
11月	**社内起業家を生み出す経営　～いま一番必要なイントラプレナーを生み出す仕組みとは～**	経営環境が劇的に変化するなか、企業内において新規事業を構想・創造する人材「イントラプレナー」に注目が集まっていますが、実際には思うようにイノベーションが進まない、新規事業を創出できる人材がいない、という課題に多くの企業が直面しています。企業が生き残りをかけた激しい競争に勝ち抜き、次の成長を達成するためにはイノベーションや新規事業の創出は必要不可欠ですが、企業はどうやってイントラプレナーを生み出していけばよいのか検討致します。	**質問する力** 本質的な問題発見にあたって、経営者として、どのように問題を捉えていくのか、その鍵となる「質問する力」を身につけます。			松下　幸之助 ※書籍を利用
12月	**高収益企業の経営戦略 ～超高収益企業へと変革するために企業がとるべき戦略とは～**	いま日本の上場企業は過去最高益を達成しており、日本企業の「稼ぐ力」は高まりつつあるが諸外国に比べると低迷しています。株価指数や人材競争でも「一人負け」している状態にあり、激化するグローバル競争を勝ち抜くうえで深刻な問題になっています。なぜ日本企業の収益性は低いのか、企業は「稼ぐ力」をいかに高めていけばよいのか、検証いたします。	**ロジカルシンキング／考える技術** 意思決定にあたって、経営者としてどのように問題点を捉え、どのようなアプローチで解決策を考え、決定を下していくのか、事実をベースに論理的かつ創造的に問題を解決していくアプローチを身につけます。			未来学者 アルビン・トフラー
1月	**2019年経済から見た今後の経済見通し**	2019年の国内外の経済動向を整理し、2020年に向けての日本企業の経営課題を総括・検討します。	**議論する力** グローバル化が進む中、世界の共通言語であるロジックを前提とした「議論する力」を身につけます。そのうえでより高次な問題解決につながる議論のスキルについても学びます。			ユニ・チャーム株式会社 ファウンダー 高原　慶一朗
2月	**イノベーション都市・中国深圳の研究 ～「世界の工場」から「ハードウェアのシリコンバレー」へ～**	いま世界では都市間によるイノベーション創出の競争が激化している。中国・深圳は1980年に鄧小平の「改革解放政策」を担う最初の経済特区に指定され、それ以降、急速に発展して今や「中国のシリコンバレー」と呼ばれる人口約1,400万人の巨大な知識集約型IT都市に変貌しつつある。一方、世界的な潮流に完全に乗り遅れた日本は深圳から何を学ぶべきか、検証いたします。	**構想力** 「こうすれば企業は成功する」といった従来のKFS分析では答の出ない「見えない大陸」で、見えないものを見る力、それを具体的にビジネスに落とし込んでいく、「構想力」を身につけます。			ソフトバンク株式会社 代表取締役社長 孫　正義
3月	**AIをビジネスに実装する方法**	AIを試験的に導入する時代は過ぎ、いまや様々な企業が現実のビジネスにAIやディープラーニング技術を活かした事業展開を行っています。そうした動きは決して製造業やハイテク企業に限ったことではなく、小売・流通業や物流などなど、業界や業種を問わず急速に広がっています。企業はどう現実のビジネスにAIを活かせばいいのか？基本的な仕組みから、実装、運用のための成功要件、最新事例について解説いただきます。	**0から1の発想術** 現在の社会は、個人個人の創る富や生み出したアイデアが、世界経済に極めて大きな影響を与え、「一個人のイノベーションによって変化する世界」であるといえます。その中で、ビジネスマンが生き抜くために必要な最大のスキルである、「0から1を創造する力」、「無から有を生み出すイノベーション力」を身につけるための「15の発想術」について学びます。			ケニア・ナッツ・カンパニー 創業者 佐藤　芳之
4月	**生産性を高める経営 ～企業はいかに「稼ぐ力」を高めていけばよいのか～**	いま、少子高齢化、労働力不足、ライフスタイルが多様化するなかで働き方のあるべき姿について議論が盛んであるが、それらの多くは論点がずれている。本来あるべき働き方とは何か、また企業はいかに生産性を高めて行けばよいのか、国内外の事例から検証いたします。	**低欲望社会　「大志なき時代」の新・国富論** 将来への不安感が蔓し、若者の欲望が減衰している今の日本では、政府の経済刺激策は効果が期待できません。凍てついた消費者の心理を溶かし、“縮み志向”の経済を転換させるビジネスチャンスはどこにあるのかを検討します。			株式会社オプティム 代表取締役社長 菅谷　俊二
5月	**IoTのビジネスインパクト**	身の回りのあらゆるモノがつながるIoTは、世界の産業や社会のあり方を根本的に変えてしまう可能性があります。IoTとは何か？企業はIoTがもたらす変革をいかにビジネスチャンスにつなげればよいか検討します。	**ハイコンセプト**（ダニエル・H・ピンク 著） トフラーは第三の波を情報化社会と呼んだ。では第四の波は何か。それは「コンセプチャル社会」である。新しいコンセプトをいかにつくり出して世の中に提示できるか、ビジネスリーダーに求められるクリエイティビティを学びます。			株式会社サイバーエージェント 代表取締役社長 藤田　晋
6月	**ブロックチェーンのビジネスインパクト**	ブロックチェーンは既存のビジネスを大きく変えていく可能性を秘めています。ブロックチェーンの基本的な仕組みを理解した上で、企業や組織はどのように変化していき、どのようなビジネスチャンスが創出されるのか、実ビジネスに活かしている事例を交えながら、考察いたします。	**クオリティ国家という戦略** 中国などの工業国・巨大経済を持つ「ボリューム国家」の台頭により、「加工貿易立国ニッポン」は出口の見えない隘路に入り込んでいます。 日本が今後、21世紀を勝ち抜くために必要な「クオリティ国家」の概念について学びます。			ナイキ 創業者 フィル・ナイト
7月	**日本の経営者の課題と対策 ～企業を取り巻く経営環境が激しく変化するなかで、いま日本の経営者はどうあるべきか～**	近年、企業を取り巻く経営環境が激しく変化するなかで、日本の伝統のある大手企業が次々に経営破綻の危機を迎えたり、大幅な最終赤字を計上する事例が増加している。時代の変化を捉えられていないだけではなく、そこには サラリーマン化する経営者の資質、能力、後継者選定などのコーポレート・ガバナンスの問題、が指摘されている。いま日本の経営者の何が課題なのか、どうあるべきか検証いたします。	**新・資本論～見えない大陸へ挑む～** 「Invisible Continent（見えない大陸）」とは、現在大変革が繰り広げられている新たなビジネスの舞台である。その新大陸で成功を収めるための戦略とヒントを学びます。			株式会社ファーストリテイリング 代表取締役会長兼社長 柳井　正　※書籍を利用
8月	**M&A成功の条件**	成長戦略としてM＆Aは重要な戦略のひとつです。最近は日本企業による外国企業の買収も活発になってきました。M＆A実行にあたり日本企業が陥りやすい罠を明らかにしたうえで、企業経営者としてM＆Aを成功させるにはどのようなことに留意すべきかについて検討します。	**「リーダーの条件」が変わった** 大震災、原発事故、戦後日本が初めて経験する、先が見えない時代。このような環境で求められているリーダーシップとは何かを学びます。			エムスリー株式会社 代表取締役社長 谷村　格
9月	**日本企業のキャリアパス問題とあるべき姿**	20世紀の経営資源は「人・モノ・カネ」でしたが、21世紀の成功の鍵は「人・人・人」です。経営者が社内の人事制度の改革やシステム作りに多くの時間を使っている会社は良い会社になる可能性が高くなる一方、残念ながら日本企業の大半はそうではないのが実情です。世界的な人材競争がますます激しくなるなか、問題を解決できる“余人をもって代えがたい人材”とつながり、彼らの能力を引き出し成果を上げていくために、日本企業のキャリアパスはどうあるべきか、検証いたします。	**50代からの選択** 充実した人生を送るためには30代、40代から第2の人生をどう生きるか準備を進めるべきです。そして50代は行動に移す旬。今までの自分の生き方を、すべてリセットして、どのように新たな生き方の準備をするのかを考えます。			オイシックス・ラ・大地株式会社 代表取締役社長 高島　宏平

※テーマは変更になる可能性があります。